



川崎競馬倶楽部



SINCE 1990



<http://www.kawasakikikeiba.com>

〒212-0002 川崎市幸区小向仲野町15-4 川崎競馬倶楽部

2008年6月号

川崎馬たちの熱きダービー☆Night

3年連続川崎馬が戴冠！ ドリームスカイが54代東京ダービー馬に輝く



オーラガイア



ディアクエ



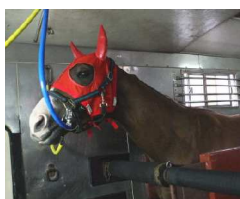
ドリームスカイ



ヴァイタルシーズ



ブライトフェース



ゲンキチホマレ
(馬運車待機)

第54回東京ダービー。舞台は6月4日の大井コース距離2000m。南関3歳の選ばれし精鋭たちが挑む頂点レースのフルゲート16頭に川崎からは6頭が出走。一生に一度のこの舞台で主役に躍り出るのはどの馬なのか。圧倒的人気を集めるディアクエは羽田盃の雪辱を果たすことができるのか。ダービーウィークの一貫でもある東京ダービーは最高に熱い夜となった。

東京ダービーに向けて川崎から出走6頭が川崎競馬小向厩舎を出発したのは17時40分。オーラガイア、ディアクエ、ドリームスカイの3頭、ヴァイタルシーズ、ゲンキチホマレ、ブライトフェースの3頭の組み合わせで二台の馬運車に分乗。18時10分大井競馬場に到着。

次々に馬運車から待機馬房に移動する中でゲンキチホマレだけは馬運車内で待機。レース50分前になると装鞍所そしてパドック周回へと向かう。

20時10分発走。高らかにファンファーレが鳴り響き、スタートが切られた。

ダッシュよく飛び出したのはディアヤマト。キャンブルオンミーと続くが、勢いよく競りかけていったのが羽田盃馬ニックパニヤン。一気にペースは上がって前半35秒0のハイラップ。逃げ馬ヴァイタルシーズはモエレラッキーの後ろ5番手まで。ブライトフェースは中団から、ディアクエは後ろから5番手、スタート遅れたドリームスカイはその後方。オーラガイア、そして最後方からゲンキチホマレ。

ペースがようやく緩んだのは3コーナー手前。向正面からじわじわと進出したディアクエが上がっていく。オーラガイアも続く。モエレラッキー以外の先行集団が次々と失速していくなか、スパートしていったんは先手に並びかけたディアクエ。しかしながら直線あと100というところで耳を絞りいつもの爆発力が見られない。その外を一気に突き抜けたのがドリームスカイだった。粘るモエレラッキーをクビ差しりぞけての戴冠となった。

勝ったドリームスカイは圧倒的の一番人気ディアクエと同じ内田勝義厩舎。ダービー連覇となった戸崎圭太騎手と共に表彰台に上がる内田調教師の複雑な表情が印象的だった。

晴れてダービー馬となったドリームスカイは2歳8月にデビューした川崎生え抜き馬。クラウンカップ10着、東京湾カップ4着と着実に力をつけてきたが、それ以上にペースや展開など「すべての運」を味方につけた。

ドリームスカイ

父	スウェプトオーヴァーボード
母	コクサイリボン
牡	3歳 黒鹿毛
馬主	(株)ドリームターフ
調教師	内田勝義
騎手	戸崎圭太
厩務員	樋口富男
生産者	新冠・堂島牧場



photo by RORO



～闘い終えて～



1着 ドリームスカイ(戸崎圭太騎手)

中団からという指示だったのに出遅れてしまった。結果的にそれも良かったね。後ろから折り合いもついたらディアクエがどこにいるか意識しながらレースを進めて、その後ろにいれば道が開けると思っていた。3、4コーナーでオーラガイア前に入ってきたことで無理せず脚をためることができたのもいい結果に繋がった。直線は無我夢中で追いました。

次走はJDDを予定。



4着 ディラクエ(今野忠成騎手)

4コーナーで張田騎手の馬(モエレラッキー)と並んだ時にはこれでもうひと伸びしてくれるだろうと思ったんだが伸びなかった。無理にあがっていったわけではないが結果をみれば動くのが早かったのか。せっかくもらったチャンスを生かすことができなかった。

次走はJDDを予定。



6着 ブライトフェース(佐藤博紀騎手)

今日は折り合いもついていなし、一戦ごとに馬が勉強していますね。最後までそうバテなかった。

このあとは休養へ。



8着 オーラガイア(石崎隆之騎手)

スタートは相変わらずよくなかったね。道中は流れがいったん落ち着いたところで上がっていったから無理はしていない。そこから伸びなかったのは現時点での力の差。これからの馬だよ。

今後の目標は戸塚記念。



9着 ゲンキチホマレ(町田直希騎手)

後ろから行くつもりではいたが、ついていくのがやっとな感じ。相手が速くて。距離的にももう少し短いところがいいと思うし疲れが出ているのかも。

このあとは休養へ。



12着 ヴァイタルシーズ(酒井忍騎手)

ハナに行きたかったが周りが速くて行くことができなかった。この馬自身も疲れが出てきているのかもしれないね。このあと休養と聞いているので、休んでまたよくなってくれば、

このあとは休養へ。

photo by Mr.O



本田紀忠騎手が高知での期間限定騎乗を終了

6月1日までの期間限定騎乗を終えて本田紀忠騎手が川崎へ帰ってきました！当初は1月7日から約3ヶ月間の予定で高知競馬場へ武者修行に向かった本田騎手でしたが「もっとたくさん騎乗チャンスをもらって勉強したい」と期間延長を志願して高知での騎乗を続けていました。

3月16日には昨年4月のデビュー以来待望の初勝利。高知を舞台に行われる全日本新人王争覇では久しぶりに同期と再会し選ばれし舞台に立つ仲間の姿を見て、「来年は自分が選ばれるよう努力しよう」と奮起したそうです。6月2日に高知から戻った本田紀忠騎手はさっそく翌朝から調教に騎乗。

「高知ではたくさんの騎乗機会をもらって初勝利をはじめ、2勝目もあげることができました。本当にいい良かったです。しっかりバランスをとって乗ることを学びました。地元での騎乗でも生かせるように頑張ります」と心身共にパワーアップ。高知では157戦2勝という成績を残しました。そんな本田騎手をあと押しする河津調教師も「調教に乗っているのを見ると馬の御し方がしっかりしてきた。高知で学んだことは大きかったようだね。レースでもぜひ生かしてほしい」と期待を寄せています。



HAPPY BIRTHDAY 6月生れ

坂下武男厩務員(3日) 奥篤史厩務員(4日) 高橋隆厩務員(4日) 大貫忠芳厩務員(5日)
久保勇調教師補佐(6日) 稲子善行厩務員(7日) 古本基厩務員(8日) 伊澤純也厩務員(8日)
川口真申厩務員(9日) 齊藤芳明厩務員(12日) 植松泰憲厩務員(13日) 佐藤博紀騎手(18日)
中地雄一騎手(18日) 福島秀夫調教師(23日) 村田六郎調教師(23日) 木戸勉厩務員(24日)

高橋 隆 厩務員 <福島秀夫厩舎>

6月4日が誕生日の高橋隆厩務員。明るい笑顔が特長な彼は、新潟競馬の元ジョッキーである。

生まれたのも新潟であるが家は競馬と関わりがないようで、きっかけは、「親の勧めだね。自分が小さかったのもあるし、親もなりたかったみたいだけど家業を継いだから。」だそうです。



中学を卒業してすぐ新潟の鈴木厩舎に下乗りとして入った高橋さんであるが、もちろんそれまでは馬に触ったことすらな

かったらしい。その時の心境は、「何とも言えなかったね。えーって思った。必死だったよ。バケツの水もやっとこ持っていた。馬に乗っても止まらなくなったり。」とかなり苦労したようだ。それでも、「一年経つと下手でも何でも乗れるようになった。」そうで、無事に地方競馬教養センターに入学した。

入学した頃の同期には名古屋競馬の吉田稔騎手などがいたそうだ。ただ残念な事に怪我のせいで高橋さんは一期落第してしまい、卒業は名古屋の安部幸夫騎手や佐賀の山口勲騎手等と一緒に。ちなみに学生時代の馬の審査では、安部騎手が1位。そして高橋さんが2位で山口騎手が3位と、高いレベルの争いだったようだ。

そして見事地元の新潟競馬で騎手としてデビューした。騎手時代の思い出の馬はバンダムショット(バンダイの社長の持ち馬)。その馬で重賞を勝ったのももちろんよい思い出であるが、「2着だったのも悔しくて覚えている。」と敗戦もきちんと語ってくれる。

8年間の騎手生活を送ったが、「騎手を続けていくには体重が軽過ぎたから。それに馬が可愛くなったし。自分には厩務員の方が合っているかなと思い始めた。」事がきっかけで騎手を引退。厩務員に転身した。

まずは岩手で一年働いたが、そこで名馬テツノジョージと出会った。「歩様が悪くて、しかもツメが空洞になる病気。」で大変だったようだ。その後新潟に戻り、廃止と同時に知り合いの馬主の紹介で川崎に来た。

現在は4歳のシャドウブークと3歳のサタンゴールドを担当している。「最近やっとなつくようになった。」とサタンゴールドに対して目を細める高橋さん。馬に対して心掛けているのは、「信頼関係。」と即答してくれた。

「言いたい事を言えるまでには信頼関係を作ること。それは馬も人もそう。信頼関係が出来るまでは怒るのも我慢。馬の言う事も聞くようにする。気を遣うけど理解すれば大丈夫。」そして元ジョッキーらしく、「調教がいきがい。」ときっぱりと言う。また、「意識は高く維持していかないと。人の財産を預かっているから。」といつも真剣勝負。

川崎に来て一番うれしかったのは、「ヤマノロビンスターが走った事かな。膝が悪かったのに9勝くらいしてくれた。」事だそう。

仕事に対していつも全力投球の高橋さん。たまの休みもマッサージに行くか、寝てばかりだそう。この仕事をしていると連休がある訳じゃないし、中途半端。休みはあってないようなもの。」

誕生日も特に変わった事はする予定がないらしい。

将来の目標はやはり調教師。まずは補佐を目指しているという高橋さん。馬に対する熱い気持ちをずっと持ち続けている人である。

アンパサンド本格休養へ

昨年の東京ダービー馬アンパサンド。ジャパンダートダービー後にはヒザ骨膜の手術などを施され東京大賞典で復帰。フェブラリーステークスへも挑戦して4月のマイルグランプリでは復活の狼煙をあげましたが古傷が悪化。短期放牧先からいったんは帰厩したものの予定していたプランをすべて白紙にして本格休養に出されることになりました。



すでに6月14日に生まれ故郷の北海道・サンシャインファームへ移動。

「関節から来るものなのかトモの動きが悪い。将来のある馬だけにここでじっくり治療して立て直すことにしたよ」と池田孝調教師。

最初の一ヶ月はのんびりして、そのあとは乗り出すそうで、帰厩は夏過ぎの予定です。

エスプリフェザント引退



デビューから二戦目にして2004年鎌倉記念を制する快挙を成したエスプリフェザントが引退しました。

迫力ある馬体と非凡なスピードでファンを魅了しましたが、一方で骨瘤が出るなど脚元が弱く、休養を挟みながらの競走生活。順調に仕上げるのが難しい馬でした。2007年春から長期休養に入って10ヶ月には戦列復帰。同時に武井栄一厩舎から久保秀男へ移籍。「重賞ホースでもあり、託された以上再生させたいと手を尽くしたが大型馬だけに脚元への負担は大きくなった。差す競馬もできるはずだと最近では脚質転換を図ったが結果を出すのは厳しかったね」と久保秀男調教師。「雄大な馬格は乗馬に向きそう」と望まれ、エスプリフェザントは乗馬として第二の馬生を送ることになりました。生涯成績は23戦5勝。

おつかれさま

平成20年5月退厩馬

厩舎名	馬名	性	年齢	退厩先	退厩理由
村田六郎	ダイゼンシン	牡	3	兵庫県	転厩
山崎尋美	コードテレグラム	牡	5	群馬県	乗馬
田島寿一	ベルコート	牝	4	群馬県	乗馬
久保秀男	エスプリフェザント	牡	6	群馬県	乗馬
三橋三吉	パロリスフォンテン	牡	7	山梨県	乗馬
三橋三吉	ペガサスホープ	牡	8	石川県	転厩
三橋三吉	マークオブプリンス	牡	4	石川県	転厩
今井輝和	ナタリーシルク	牝	4	福島県	乗馬
高月由次	アクアジーニャス	牡	5	東京都	転厩
田邊陽一	ワイエスアモーレ	牝	3	東京都	転厩
池田孝	ラバースオンリー	牝	3	福島県	廃用
池田孝	ヒカリハイコースト	去	4	神奈川県	乗馬
山崎尋美	シンボリパッパ	去	4	千葉県	転厩
山田正実	ファイブザドリーム	牡	7	群馬県	乗馬
田邊陽一	シハウネリ	牡	5	栃木県	乗馬
佐々木仁	キッズアルタイル	去	5	栃木県	乗馬
池田孝	ロイバークレット	牡	5	静岡県	乗馬
池田孝	サウンドプレミアム	去	5	静岡県	乗馬
佐々木仁	ミカツキオーカン	牡	5	兵庫県	転厩
高月賢一	タイムボム	牝	3	栃木県	乗馬
高月由次	ジョウテンチドリ	牝	3	栃木県	乗馬
田邊陽一	ラブアンドラブ	牝	3	埼玉県	転厩
佐々木仁	グランドメロー	牝	5	栃木県	乗馬
河津裕昭	コスモエターナル	牝	4	東京都	転厩
内田勝義	クンシラン	牝	4	高知県	転厩
内田勝義	ミムズプレゼンター	牝	4	高知県	転厩
長谷川蓮太郎	オトコノロマン	牡	4	福島県	乗馬
佐々木仁	グランドアワード	牝	4	兵庫県	転厩
岩本洋	スタンダードアンナ	牝	5	神奈川県	乗馬
田村豫志雄	コスモキラウェア	牡	4	岩手県	転厩
原三男	ベリンダ	牝	4	埼玉県	転厩